

領域2 運営会議議事録

平成17年9月20日 17:30-19:00

同志社大学 物理学会秋季大会 XK 会場

1. 活動報告

- ・3学会共催セッションを第60回年会(東京理科大)で開催した。
280件(100件増) 盛会であった。
- ・メーリングリスト(PlasmaML.nifs.ac.jp)の整備。現在約600名登録。
誰でも出せるので、活用してほしい。
- ・2006年5月の3学会共催セッションの開催に関して、東大にて8/19第1回打ち合わせを行った。

2. 第61回年会における企画セッション(高エネルギー密度状態の科学)について

- ・3学会共催セッションの物理学会のホストは終わったが、フォローアップしていくため企画セッションを設けた。
- ・第61回年会における企画セッションとして、第1キーワードに「高エネルギー密度状態の科学」を設けた。合わせて、キーワードの変更を行った。
- ・世話人は阪大レーザー研の児玉氏と高部氏。20分講演やシンポを含めて柔軟に設計が可能である。この件については理事会の承認を得ている。
- ・ビーム物理領域(世話人細貝氏)と合同セッションとすることで了解を得ている。
- ・高部: 阪大のレーザー研が全国共同利用研となるタイミングにあるので、メッセージをしっかりと出していきたい。

3. 3学会合同プラズマシンポジウム(2006年5月)

- ・地球電磁気・地球惑星圏学会がホスト、地球惑星科学関連学会の中で、(5月14日-18日の中の4日間を予定)幕張メッセで行われる。
- ・第1回打ち合わせで、セッション8分類をほぼ決めた。現象よりも物理としてカテゴリー分けを行っている。物理学会の考え方をほぼ踏襲している。
- ・各セッションのオーガナイザーを各学会から推薦。物理学会からは
 1. プラズマ加熱、波動-粒子相互作用 飽本(帝京大)
 2. 乱流・輸送、非線形現象 吉田善(東大)
 3. 構造形成、エネルギー解放、領域間相互作用 田中雅(核融合研)
 4. 相対論プラズマ、粒子加速 高部(阪大)
 5. 磁場の起源・ダイナモ 小野(東大)
 6. プラズマ観測・計測、新技術 門(東大)
 7. 多体系・強結合プラズマ、イオン性プラズマ 畠山(東北大)
 8. 原子・分子過程、弱電離プラズマ 加藤隆(核融合研)

各セッションのオーガナイザーから会員に参加を呼びかけていただく。

4. 若手を対象とした賞の創設について

・理事会での議論の参考のため領域で議論して欲しいと物理学会長からの要請があった。今回の賞の創設は領域ごとに自由度が許される予定である。

・以下、意見交換概要

高部氏が理事会での議論の紹介を行った。会員の名誉のため賞の議論はしてきたが、分野ごとの特殊性などもあり一括した議論がなかなか進んでいない。特に若手は任期制などもあり、インセンティブを高めるためにまず若手賞から取り上げることになった。領域毎に案を出してもらい、各領域での自主自立を生かすことを考える。

児玉：領域2は平均年齢が高い。若手の定義を本当の若手にすべきである。

矢木：推薦者で決まってしまうようになりかねない。また、推薦が偏る。

高部：2-3年の業績に基づいてやるべき。ジャーナル掲載は条件にしない。物理学会員であり、学会での発表は条件になるだろう。

赤塚：応物学会では若手講演賞と論文賞。講演賞は0.5%程度。申し込み時に申請する(自薦)ようになっている。講演と論文を分けている。

安藤：若手賞については数を出してはどうか。

門：大枠セッション毎に一人づつくらい。自薦に限る。

：権威者の審査ではなく、投票など、コミュニティの意見が反映できるような形にならないか。

長崎：投票になると組織票が問題。

矢木：理事会という組織でやらないなら、アドバイザーボードがやることになる。負担を減らすための方法を考える必要有り。

：若手が選ぶというのはどうか。

永岡：講演賞と論文賞の2本立てではどうか。

岡本：物理学会として賞を出さないという宣言をする考え方もあるのではないか。

高部：それは時代観からありえない。3-4年理事会で議論した結果、やるべきだということになった。

岸本：座長に審査の役割を持たせてはどうか。

金子：発表賞の場合、応物では33歳以下、プログラムに発表賞に応募した講演には印がついている。審査に関しては若手にも座長を任せてはどうか。

矢木：若い人の素性がよく分からないので、座長に選ぶのは難しい。

高部：吉田前代表の時に、大所高所から判断してもらえるOBのような方に座長をお願いしてきた経緯がある。

：若手の年齢は、科研費、若手と合わせるのはどうか。その場合、学生が対象でなくなる。学生を対象とするものも設ける。

安藤：発表賞について座長、セッションの組み方と選考者として適切かが相反する場合もある。電気関連学会では、若手セッションでやっている。対象となる人の発表をまとめた合同セッションを企画することも一案である。

高部：論文賞選考にはアドバイザリーボードに頼らず、多くの人にコミットしてもらうべき。やり方に試行錯誤は必要。

田中：出された意見を ML へ出して、意見を求める。

賞の創設に関する議論のスケジュール(案)

05 年 09 月 領域 2 運営会議 問題の提案と議論、意見収集 (一部決定)

05 年 10 月 運営会議議事録配布(PlasmaML), 意見収集

05 年 12 月 アドバイザリーボードにおいて原案作成

06 年 03 月 61 回年会運営会議において最終案決定

06 年 09 月 秋季大会において第 1 回受賞者決定

5. 次期領域代表、副代表紹介

10 月から交代、岸本泰明氏 (京大) 代表、小野靖氏 (東大) 副代表
任期は 2006 年 9 月まで。

6. 次期世話人紹介

10 月から交代、澤田氏 (信州大)、篠原氏 (原研)、赤塚氏 (東工大)

長崎：選考が限られた人の間で行われ、範囲がせばまっている。ML などで公開されたい。

田中：本来そうすべきであるし、この点は改善する。

門：この運営会議で承認される事項である。

拍手を持って承認

7. その他

矢木：伊藤氏よりシンポ提案。演者は Dendy, 藤沢、柴橋、矢木

タイトルは Multiple scale nonlinear dynamics in plasmas。

アドバイザリーボードで検討する

高部：ITER BA に対する学術的内容のシンポを開催してはどうか。

田中：アドバイザリーボードの前に ML でシンポの提案を募る。

高部：運営会議を昼にできないか。皆が参加できる機会とすべきである。

田中：実現可能かどうか岸本次期代表とも相談して検討してみる。

以上